

新しい美術館の整備について

大阪市 経済戦略局

【新美術館のコレクション】

19世紀後半から今日に至る日本と海外の 代表的な美術作品 《約5,000点》

- モディリアーニに代表されるエコール・ド・パリの作家の作品
- バスキアやフランク・ステラなど現代美術の作家の作品
- 国内最大かつ最高水準の佐伯祐三の名作
- 具体美術協会のリーダーである吉原治良の作品：約800点
- ロートレックやカッサンドルなどのポスターコレクション（寄託）
- ウィーン工房の家具などのデザイン作品約200点



コロマン・モーザー
《肘掛け椅子》



アメデオ・モディリアーニ
《髪をほどいた横たわる裸婦》

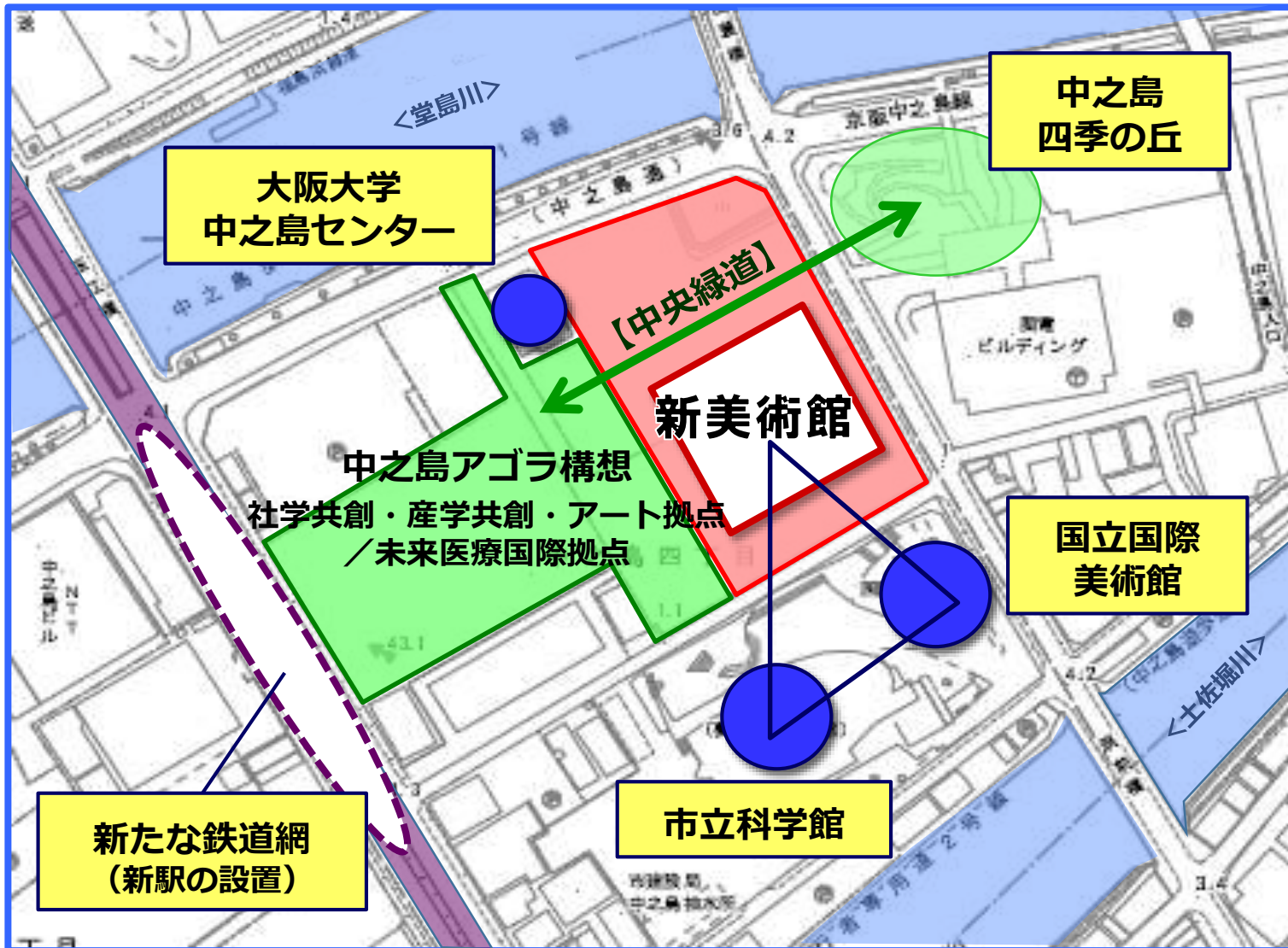


佐伯祐三 《郵便配達夫》



アルベルト・ジャコメッティ 《鼻》

【周辺施設との連携】



【新美術館の設計案①】

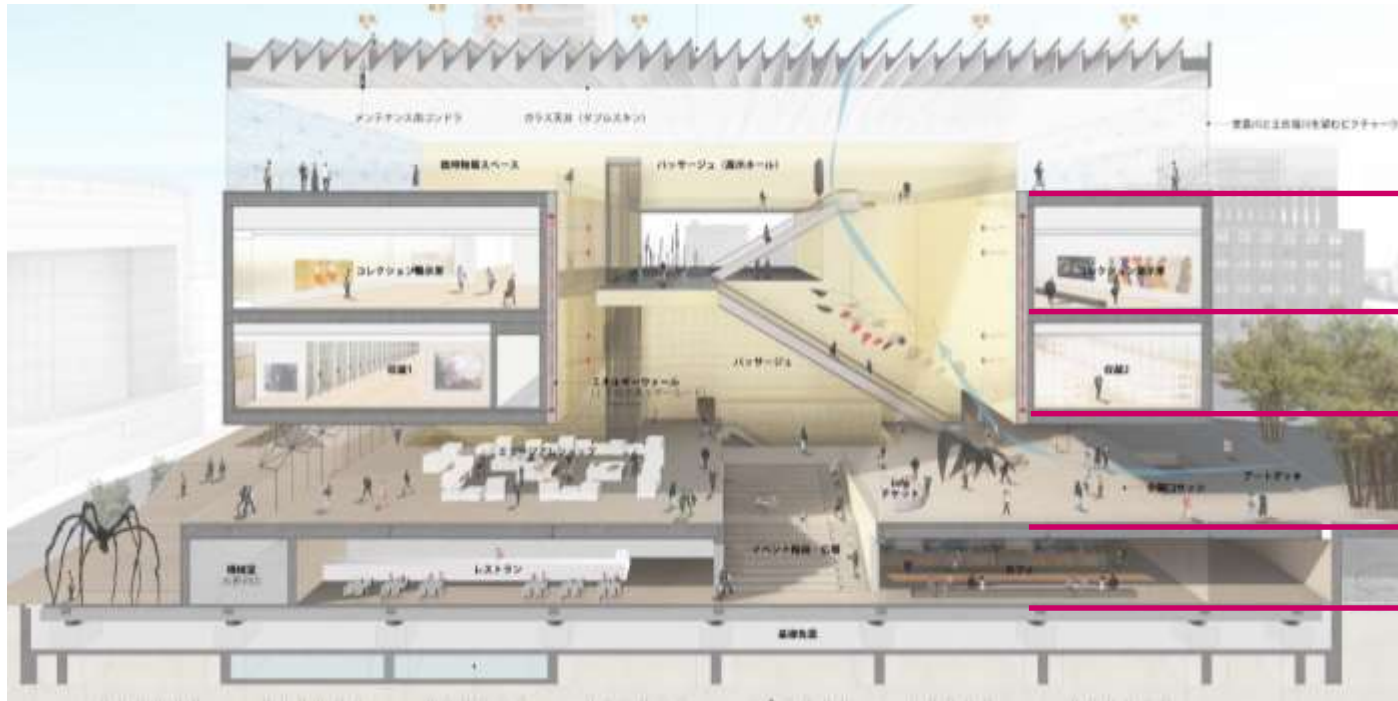


※公募型設計競技最優秀案より

＜国内トップクラスのミュージアム＞

- 公募型設計競技（設計コンペ）を実施し、海外からの参加者を含む68者の中から本年2月に最優秀案を選定【最優秀案の提案者：遠藤克彦建築研究所】
- 浮かび上がるような外観と、黒い直方体を切り欠くように立体的に配置されたパッサージュ空間が特徴

【新美術館の設計案②】



【5階】企画展示室

【4階】コレクション展示室

【3階】収蔵庫

【2階】エントランス等

【1階】サービス施設等

※公募型設計競技最優秀案より

＜新たな都市魅力の創造＞

- 周辺敷地と2階デッキレベルで接続することで、**中之島のまちづくり**に貢献
- 充実したサービス施設を道路に面して設置することで、**エリアの賑わい創出**に寄与
- 緑あふれる屋外広場を設け、多彩なイベント開催に対応するとともに、**地域住民の憩いの空間**を創出

【新美術館の運営】

＜PFI手法の導入＞

- 大阪の魅力を世界に発信する施設として、高い集客力と話題性を備える必要がある
- 中之島のまちづくりや文化芸術エリアとしてのプロモーションを先導する必要がある
- 美術館では、カフェ、レストラン、オープンスペース等の重要性が増大している

- ・ 民間の創意工夫が最も期待できる**コンセッション方式**を中心に検討
（H28は内閣府、H29は文部科学省の支援を受け検討を実施）
 - ・ 現在、民間事業者の関心度を調査するため、マーケットサウンディングを実施中
- ※コンセッション方式：利用料金の徴収を行う施設に特化したPFI方式で、他都市でも文教施設やMICE施設への導入が進められている

【運営事業者に期待するもの（イメージ）】

話題性のある
集客イベント
の開催

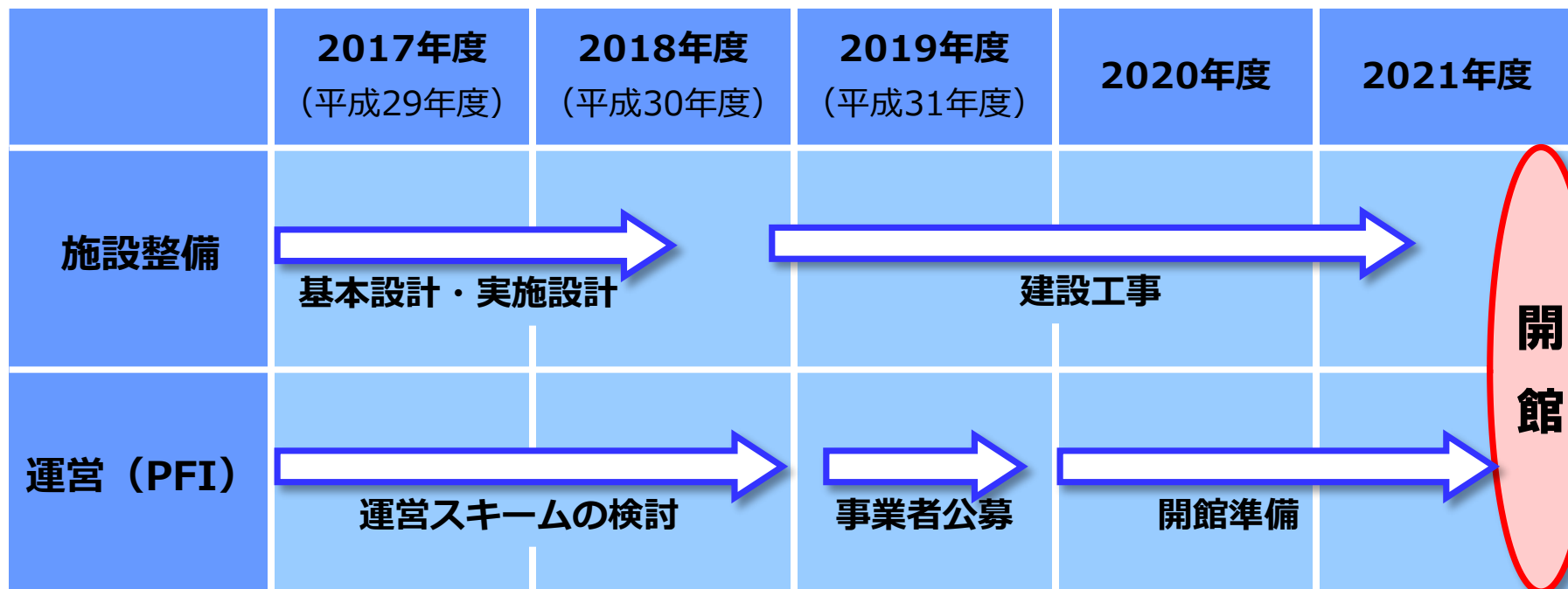
魅力的な
サービス施設
の誘致

ファミリー層
など新たな顧客
の開拓

美術館の
新しい楽しみ方
の提案

非日常を楽しむ総合アート空間の提供

【今後のスケジュール】



【2021年度】

国内外から注目を集める新しい美術館の開館
中之島の活性化のトリガーとなる都市魅力の創造